

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	江北町立江北中学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・学校評価保護者アンケートにおいて、「学力の向上」「生命尊重や思いやりの心を育む教育」「いじめについての早期発見」「生徒一人一人への理解」についての学校側の取り組みにおいては、8割以上の保護者が肯定的な回答を寄せていた。このことから今年度の学校教育目標に沿った教育活動はおおむね推進できていると考えられる。一方、家庭学習への取り組みについては生徒、保護者の半数近く、道徳の授業への意欲については4分の1余りの生徒が否定的な回答をしていた。学習への習慣づけの指導や道徳教育へのさらなる取り組みの推進を行う必要がある。 ・「時間外業務」への教員の意識について、4割以上の教員が否定的な回答をしており、今一度、教員が「働き方改革」の意義について認識する必要がある。 ・コロナ禍の収束を受けて、江北小学校との授業交流や情報交換などの連携を再開したが、連携が進んできたと考える教員は半数にとどまっており、義務教育学校の開校を見据えて、さらなる連携を進めていく必要がある。
------------------	--

2 学校教育目標	自ら学び心豊かにたくましく生きる生徒の育成
----------	-----------------------

3 本年度の重点目標	○確かな学力の育成 ・学習規律の確立 ○心の教育の充実 ・生徒指導・支援体制の充実 ○自主活動の推進 ・生徒会活動の充実 ・「めあて」「まとめ」「振り返り」で授業改善 ・不登校対策推進 ・道徳教育の充実 ・特別支援教育の推進 ・人権・同和教育の推進 ・家庭学習の質向上 ・ICTの利活用 ・小中連携の推進 ・ボランティア活動の推進 ・キャリア教育の充実 ・無言清掃の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○自分の考えをもち、表現できる生徒の育成	○「自分の考えをもち、表現することができた」に肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上。 ○「家庭学習に2時間以上、計画的に取り組んでいる」と答えた生徒の割合60%以上。	・生徒が関心を持ち、かつ取り組みやすい学習課題を提示し、自分で考え判断し、さまざまな手段で表現する活動を仕組む。 ・生徒による授業アンケートを学期に1回実施し、授業改善を行う。	B	・中1英数週2回TTIによるきめ細かい指導体制 ・中2、3英語TTIによるつまずいている生徒への指導体制 ・生徒自身の考えを表現させる場としての、パフォーマンス課題を設定した授業づくり ・生徒による授業アンケートによる授業改善	B	・教師アンケートで「生徒が考え、表現する言語活動を授業中に組み込む」に肯定的な回答をする教師の割合が、84%を達成した。帯学習やパフォーマンス課題に伴う学習といった、生徒の主体的学びにつながる学習課題を設定した日々の授業実践。 ・TT授業や授業参観、生徒による授業評価アンケートなどによる取り組みにより、生徒アンケートで「先生が分かる授業に努めている」に肯定的な回答をする生徒の割合が、95%を達成した。 ・自主学習ノートの、授業改善による家庭学習向上のための取り組みについて、さらに進めていく必要がある。	B	・同じ教科で、教える先生が違えば、生徒の理解度に差があると聞いていると聞く。その改善に努めて頂きたい。 ・「授業で自分の考えをもち、その考えをワークシートに書いたり、発表したりすることができているか」で否定的な答えが24%もあるのは問題であると思う。(生徒の性格もあると思うが) ・生徒がわかっていないかどうか知りたい。「話す・聞く」がうまくない子どもが多くなっているの、で「表現」について学んでほしい。 ・先生がわかる授業に努めていると考えている人が多いのは、うれしいことである。丁寧に指導して頂いていると思う。 ・いろいろな取り組みは評価できる一方で、数字として成果が出ていない。学力とは何を指すのか評価が難しい。 ・文化発表会での一体感ある歌唱および行動に、日頃から自主的に取り組んでいる姿勢が見て取れた。
				A	・7月1日に平和集会を実施した。 ・学年の道徳担当を中心にチーム・ティーチングによる授業を計画的に実施できている。 ・朝の会で分門とビートのハートタイムを実施している。 ・SSE(ソーシャルスキル教育)を実施し、学校生活や感情のコントロールなど、適切な行動をとるためのスキルを身につける活動を行っている。	A	・具体的取組は、ほぼ計画通り実施することができた。 ・道徳の授業については、これまでの取組を継続し、チーム・ティーチングによる授業を計画的に実施した。 ・道徳科の授業研究会を実施し、道徳の授業改善に努めた。 ・「学校は、自他の生命を尊重し、思いやりの心を子どもたちに育んでいるか」に肯定的な回答をした保護者の割合は89%だった。 ・自己理解、自己主張、他者理解等を目的とした1分間スピーチのハートタイムを朝の会、帰りの会で実施した。	A	・道徳の授業での学びを実際の場に置き換えて考えることが大事で、深い学びだけで終わらせてはいけなと思う。 ・「生命」「思いやり」「他者理解」など、出生から死までのことを考える機会を作れたらいいかも考える。 ・道徳の授業は生徒にとって入試科目にないのに関心が高いと思う。 ・様々な取り組みが計画され、努力されていることに、感動する。 ・丁寧に指導して頂いている。 ・自分の考えをアップデートすることは大切だと思うので、1分間スピーチはよい取り組みだと思う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業を受けることは楽しい」と答えた生徒の割合80%以上。 ○「深い学びにつながるよう、考え、議論する道徳の授業の実践に取り組んでいる」と答えた生徒の割合70%以上。	・人権集会や平和集会を実施する。 ・学年を中心にチーム・ティーチングによる授業を实践し、道徳教材の工夫改善を行う。 ・生徒を尊重する態度を称賛する場を設定する。	A	・夏季休業中にいじめ対応の研修会を実施した。 ・学校生活に関するアンケートを毎月実施して「いじめの早期発見」につなげることができている。 ・今年度よりSSEに取り組み、コミュニケーションスキルの育成に努め良好な人間関係の築き方について考える機会を設けている。 ・休み時間や昼休み等も職場指導を行っている。	B	・「いじめや差別を許さず、相手の気持ちを考えて生活しているか」に肯定的な回答をした生徒の割合は、97%だった。学校生活アンケートを毎月実施して、いじめの早期発見に努めている。また、機会がある毎に生徒指導提要用を活用し実際の生活指導の中に生かしていく必要性を訴えているが、業務の都合上で徹底できていないことが課題である。 ・「組織的な対応ができている」と肯定的な回答をした教職員は68%であり、準備時間や昼休み等の職場指導を含め取り組んでいる。その一方で、32%の教職員が肯定的な意見とは言えない状況である。そのような事から。今まで以上に対応の窓口を一本化し、誰もが理解し取り組めるようなシステムの構築が必要がある。	B	・多感な頃の人間関係は、時にとても深刻な事態を招きかねないので、できる限り最善の方法を一緒に考えてもらえるだけで教われると思う。 ・「いじめや差別を許さない」と唱えるだけでなく、クラスや学校全体の明るい雰囲気作りをお願いしたい。ここに寄り添った親身な対応を望む。 ・育友会としては、携帯電話を学校に持ち込める環境作りを努めていきたいと考える。そのための規則を生徒と一緒に作り、子どもと親と一緒に守る規則にしたいと考える。 ・アンケートを見ると生徒が自分の心と戦いながら集団の中で生きているのがわかり素晴らしいと思う。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について肯定的な回答をした生徒は、90%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は、73%であり、さらなる進路指導の充実が必要である。
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組むとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○「キャリアパスポート」を活用するなど、生徒の進路や将来のことについて考える時間を待っている」と答えた教員の割合80%以上。	・職業調べ・職場体験・進学説明会など学年ごとの体験活動を踏まえて職業観や正しい進路選択の意識と態度を養い、進路学習を充実させる。 ・「キャリアパスポート」を活用し、将来の進路について考えさせる機会を設定する。	A	・1年生は職場訪問・インタビュー、キャプテン福岡での職場体験学習を、2年生は昨年度に引き続き、職場体験を実施することができた。 ・例年通り、3年対象の高校説明会を実施できた。 ・キャリアパスポートに関しては、年度初めに行事ごとに一枚ずつファイリングすることを全体で周知できた。	A	・職業調べ、高校調べ、進学説明会は実施することができた。 ・キャリアパスポートに関しては、行事や学期末ごとにファイリングすることができおり、1年生ではキャリアパスポートの活用についての学年集会も実施できた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について肯定的な回答をした生徒は、90%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は、73%であり、さらなる進路指導の充実が必要である。	A	・職場体験は、知らない大人と仕事や働くことについて考える貴重な体験だと思う。仕事をすることはとても大事だと思う。 ・職場体験は、知らない大人と仕事や働くことについて考える貴重な体験だと思う。仕事をすることはとても大事だと思う。 ・子ども達の進路を決めるのは、子ども本人であり、進路を考える機会が増えたのはよいことだと考える。 ・「あなたは、将来の夢や目標をもっていますか」で70%の肯定的な考えでは物足りない。 ・夢や目標を持つことはもちろん大切だと思うが、よい意味で適当というか、余白を持った考えでもよいと思う。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒95%以上 ○朝食をとって登校する児童生徒98%以上	・生徒会給食部の活動と連携し、「食」の大切さについて考える活動を行う。 ・江北小学校の栄養教諭と連携を図り、中学2年生に食の授業を実践する。	C	・「健康に良い食事をしている」と考える2年生の割合は、66.74%であった。 ・毎日またはほとんど毎日食事をすると答えた生徒の割合は85.7%であった。一方、食べ物の好き嫌いがないまたはあまりないと答えた生徒は35.4%であった調理実習で調理を経験させる中で、好き嫌いをせずに食べることが大切だという事を学ばせたい。 ・江北小学校栄養教諭の永田祐美先生をお招きして、「給食時間は食レタイム」の演題で全校生徒に講話を行った。	C	・生徒会給食部で2回の給食感謝会を実施した。1回目は、「バランスの良い食事」について、2回目は「給食がつけられるまで」をテーマに実施した。2回とも栄養教諭に話をさせていただき、食事について考える機会をつくることができた。 ・「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」に掲げているが、日常の給食時間に目を向けると、学年やクラスにより、偏食や小食の生徒、牛乳を飲まない生徒の問題があり、課題と感じる。	B	・家庭でとれていない栄養を給食で提供することに意味があると考ええる。 ・「いじつとでなく、望ましい食習慣で健康が作られることを指導し続けてほしいと思う。 ・食習慣の確立は家庭の問題である。 ・学校での食育の取り組みは、十分できていると思う。91%の生徒が、肯定的な回答をしている。偏食・少食・牛乳の問題は、学校での指導に限界がある。 ・食については、子どもだけではなくにもならないところだと思う。農業体験や色の話ではどどんべりボタンを活用してもらいたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○教育委員会規則に定める時間外在校等時間の上限を遵守する ○「時間外勤務の上限を理解し、時間外勤務の削減に努めている」と答えた教員の割合85%	・3ヶ月ごとの月平均残業時間を45時間以内とする。 ・定時退勤日や事務処理時間を設定する。 ・ICTを活用した業務の効率化を図る。	B	・4～11月までの月平均残業時間が44時間、9月から12月までの平均残業時間は47時間と、業務改善により教職員の意識改革が大きく進んだ。 ・ワークライフバランスのための研修を実施した。	A	・学校運営の工夫や会議等の精選、勤務時間、学校施設時刻の可視化に努め、時間外在校時間の削減が進んだ。 ・年間の時間外勤務時間の平均は45時間を下回り、昨年度に比べて時間外勤務時間の削減が大きく進んだ。 ・「あなたは、時間外勤務の上限(月45時間)を理解し、時間外勤務の削減に努めていますか」に対して、肯定的な回答が90%を超えており、昨年度までと比べて教職員の意識の改革が大きく進んだ。	A	・生徒のためだと思うと頭が下がるが、まずは先生方の健康あっての学校なので、まず自身が体調をいたわってほしい。 ・部活の指導、生徒指導等で教職員が疲れていないことを望む。 ・地域との関係性を保ち、子どもと家庭が話し合って地域クラブ等へ通えばいいと思う(家庭としては送迎が問題) ・昨年度に比べて、意識改革が進んだ。
●特別支援教育の充実	○生徒の特性に応じた教育の充実	○昨年度より特別支援教育が充実したと回答する教員が80%以上。	・該当する生徒の個別の指導計画、教育支援計画を100%作成する。 ・特別支援教育に関する校内研修会を1回以上実施する。	B	・該当する生徒の支援計画は100%作成できた。指導計画は学期ごとに作成し、生徒の指導支援に生かしている。 ・定期的な部会での話し合いを通して、職員が連携して生徒の支援にあたる事ができている。 ・夏季休業中に校内研修会を実施することができた。	A	・個別の指導計画、教育支援計画については、該当生徒すべての計画を作成することができた。指導計画については、全職員で共有し、活用をどうしていくべきかが今後の課題である。 ・外部から講師を招聘し研修会を実施した。また、支援部会等で話し合った内容については、必要に応じて職員への周知を行うことができた。「特別支援教育が充実した」に対して、肯定的な回答は95%の割合で昨年より数値を伸ばした。	A	・各教育段階での支援の難しさは認識している。時には、小中相互の特別支援学校の授業参観もあっていいと思う。 ・進学にも関わってくる時期だと思うので、慎重にされているのだと思う。引き続きよろしく願いたい。 ・先生方の努力と生徒への愛がにじみ出ていると思う。 ・成果指標を大きく上回っている。具体的取り組みも確実に実施されている。引き続き、将来を見据えた指導をお願いしたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○小・中連携教育	○小学校との連携推進	○小学校との連携が進んだと回答する教員80%以上。	・教務、生徒指導、教育相談、特別支援教育について、小学校との情報共有の場を設定する。 ・義務教育学校についての教職員の理解促進を図る。	A	・UD教育と生徒理解のための小中合同による研修会を7月に、がん教育総合推進事業のための小中合同による研修会を9月に実施した。 ・小学校の特別支援学級所属の児童(5年生)の保護者も加えた授業参観を実施するとともに、特別支援教育コーディネーターが中心となり小学校との情報交換を積極的に進めている。 ・11月1日に小学校6年生の児童の授業見学及びの後保護者も交えての説明会を実施した。	A	・小学校の特別支援学級在籍児童(小5・小6)を対象に、保護者も交えての授業参観と説明会を実施した。また、小学校の支援学級担任を対象に、中学校生活や進路に関する講話を実施し、連携を図った。 ・年間の時間外勤務時間の平均は45時間を下回り、昨年度に比べて時間外勤務時間の削減が大きく進んだ。 ・「あなたは、時間外勤務の上限(月45時間)を理解し、時間外勤務の削減に努めていますか」に対して、肯定的な回答が90%を超えており、昨年度までと比べて教職員の意識の改革が大きく進んだ。	A	・小中連携は十分にできていると思う。今後、連携を図るために、家庭にお願いしたいことは遠慮無くマチコミ等で発信してほしい。 ・特別支援学級の生徒に手厚く対応されていることがわかる。進学説明会には、親として参加したい内容だったと思う。先生方との交流を通して、子どもたちから、よりスムーズに進学できるようにサポートして頂けるとありがたい。 ・様々な工夫が展開され、素晴らしい。 ・昨年度に引き続き、11月1日の強みを生かした丁寧な取り組みがなされている。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学校評価保護者アンケートにおいて、「学校がわかる授業に努めているか」という問いに対しては、9割以上の保護者、生徒が肯定的に答えている。一方で、家庭学習に計画的に取り組んでいるかという問いに対しては、保護者、生徒とも肯定的に答えている者は6割にとどまっており、今後家庭学習に対する指導について考えていく必要がある。 ・「生命尊重や思いやりの心を育む教育」「いじめについての早期発見」「生徒一人一人への理解」についての学校側の取り組みにおいては、8割以上の保護者、生徒が肯定的な回答を寄せていた。このことから今年度の学校教育目標に沿った教育活動はおおむね推進できていると考えられる。また、道徳教育の授業への取り組みについても生徒、教師とも7割以上の者が肯定的な回答を寄せており、授業改善が大きく進んでいると考えられる。 ・「生徒の特性に応じた教育の充実」は、特別支援教育コーディネーターによるコーディネーターや小中連携の強化、また、合同研修会によるUD教育への理解が進んだことにより、大きく進んだと考えている。今後も個別最適な教育に取り組めるよう、来年度も尽力していきたい。 ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」については、教職員の意識改革も大きく進み、実際の業務改善も昨年度までに比べて大きく進んだ。今後も、教職員が働きやすい、休みを取りやすい職場環境作りに努めていきたい。
----------------	--